日本で承認されているHPVワクチン　（2026年8月時点）

ワクチン名 ［製造販売］		サーバリックス (2 価HPVワクチン) ［グラクソ・スミスクライン］	ガーダシル (4 価HPVワクチン) ［MSD］	シルガード9 (9 価HPVワクチン) ［MSD］
ワクチンのタイプ		不活化ワクチン※1	不活化ワクチン※1	不活化ワクチン※1
対象年齢		10 歳以上	9 歳以上	9 歳以上
接種回数 （接種間隔）		3 回 （0、1、6 ヶ月間隔）	3 回 （0、2、6 カ月間隔）	3 回※2 （0、2、6 カ月間隔）
感染予防効果		50 ～ 70%※3	50 ～ 70%※4	80 ～ 90%※5
副反応	軽いもの (10%以上の確率)	・注射したところの痛み、赤み、腫れ ・関節痛　・頭痛 ・だるさ　など	・注射したところの痛み、赤み、腫れ	・注射したところの痛み、赤み、腫れ
	軽いもの (1 ～10 %の確率)	・じんましん　・めまい ・発熱　など	・注射したところのかゆみ、不快感 ・頭痛　・発熱　など	・注射したところのかゆみ、出血 ・頭痛　・発熱　など
	軽いもの (1 %未満の確率)	・注射したところの知覚異常 ・しびれ感　・全身の脱力	・手足の痛み ・腹痛　など	・手足の痛み ・腹痛　など
	重いもの (頻度不明)	・ショック、アナフィラキシー ・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)	・アナフィラキシー　・気管支けいれん　・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)など	・アナフィラキシー　・気管支けいれん　・ギラン・バレー症候群 ・急性散在性脳脊髄炎(ADEM)など

※1 感染力をなくした病原体や、病原体を構成するタンパク質からできています。１回接種しただけでは必要な免疫を獲得・維持できないため、一般に複数回の接種が必要です。
※2 初回接種を15歳未満で受けた場合は、初回接種から6～12カ月の間隔を置いた合計2回の接種とすることができます。
※3 子宮頸がんを最も起こしやすい型であるHPV 16型と18型の感染を防ぐことができるため、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。
※4 HPV 16型と18型に加え、6型と11型の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の50～70%を防ぐことができます。
※5 HPV 6型、11型、16型、18型に加え、ほかの5種類（31型、33型、45型、52型、58型）の感染を防ぐことができ、子宮頸がんの原因の80～90%を防ぐことができます。

参考：サーバリックス®、ガーダシル®、シルガード®9 の各添付文書（一部改変）、HPVワクチンについて知ってください～あなたと関係のある“がん”があります～ 詳細版（2026年2月改訂版、厚生労働省）